

令和7年度 園評価書

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心も体も 元気な子	“いいな”を 見つけられる子 ～わたしも あなたも うどきたも～	一人一人が、自分の好きな遊びを見つけ、自分から意欲的に取り組み楽しむ姿がある。	室内外において、自分から好きな遊びに向かっていき遊び始める姿がある。昨日の遊びからの繋がりも見られ、遊ぶ中で友だちのしている事に刺激を受け、まねたり自分なりやってみようしたり、興味が広がっている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生たちの関わりがあるからか、子ども達が穏やかに遊んでいると感じる。穏やかな園だと感じる。</li> <li>子ども一人一人への声掛けや関わりを大切にしていると思うが、関わりや声掛けに、育ちを意識したねらいがあるかが大切だと思う。</li> <li>室内環境を見ると、協同的な遊びに向かえる環境・素材の準備が整っていないのではと感じるクラスもあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びへの積極性や前日の遊びからのつながりは感じられるが、遊びの継続する力が弱く持続しない傾向がある。保育者が遊びの展開や工夫を予測した環境の再構成や、時間で遊びを区切らず、(子どもがやりたいことがじっくり出来たと)満足するまでじっくり遊べるための環境・かかわり・保育者の意識の向け方を考えていくことが大切。</li> <li>禁止や制止する言葉や、子どもが遊びに向かっている時の声のかけすぎなど職員間で共通認識していく</li> <li>子どもが遊びに気持ちがかかえず立ち止まった時の保育者の遊びへの誘いかけのタイミングやかかわり方を考えていく</li> <li>日頃の子どもの遊びの姿を、掲示板を活用し知らせ遊びからの育ちと保育者の支えを知らせていく。</li> </ul>
		身近な人と触れ合う中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを考えたりしながら、かかわりを深めている。	保育者や友だちとの関わりの中で、安心感をもち自分の思いを、自分なりの表現で伝えている。一緒に遊ぶ中で、友だちの思いに触れ、ぶつかり合い葛藤したり、保育者の仲立ちを受けたりして、気持ちに折り合いを付ける経験をしている。	A	A		
		「どうしてだろう」「やってみよう」と感じながら遊び、達成感・充実感を味わっている。	身近な物や素材に興味を示し、自ら触れたり試したり工夫したりしながら楽しんでる姿がある。同じ遊びを繰り返し楽しむ姿から充実感を味わっているのが感じられる。	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	教育課程を活用し、一人一人の発達を知りそれに合わせた教育保育をすすめていく。	公開保育の際、教育課程を活用し今の育ちや今後育みたい姿を確認した事で、自分の学年だけでなく、各歳児の育ちの流れが意識出来た。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内を見て回ると、子ども達が安心して生活している様子が感じられる。</li> <li>園内を見たり説明を聞くと、子ども一人一人と向き合った関わりや、その子の生活や遊びの中で、思いに寄り添い支援する際の、着目点が素晴らしいと感じた。子どもにとって、自由度があると感じる。</li> <li>遊び環境が広がっていて、古い建物は仕方ないが、その中でも出来る環境の工夫や安全面の補強などがなされていると感じる。</li> <li>訓練や研修において、外部から講師を招いて学びの機会を作っているのは、良いと思う。指導を受ける事で、自分達だけでは気づけない事にも気づける環境となっている。</li> <li>研修や会議の伝達がうまく行かない点については、やはり勤務時間の違いなどの影響もあり、難しさもあると思う。出来る工夫はしていると思うが、職員が多いとなかなか皆に伝わるのは、大変かもしれない。</li> <li>保育の点では、担任だけでなく他のクラスの職員と助け合い保育にあたっていていると感じ、職員間の連携が出来ていると感じる。</li> <li>災害に関してはこれだけ良い。大丈夫という事にはならず、やはりどこまでやっても、不安や反省はうまれると思う。でも、研修を受けそれにより新たな取り組みに向かっているのは、大切な事だと感じる。</li> <li>園の取り組みを聞き、保護者アンケートを読むと、厳しい意見が毎年あると感じる。家庭支援も丁寧に個別にしていると感じる。</li> <li>今年は、近隣の学校や企業とも繋がる取り組みが出来たのは良かった。評議員会での話から、(評議員の方のご尽力で繋がった点がある)園からの発信がきっかけとなっている。</li> <li>今後も継続して地域と繋がっていくと良いと思う。</li> </ul>	
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	保護者と連絡を取りながら落ち着いた生活リズムの中で、一人一人が安心して園生活を送れるよう配慮している。	生活リズムなど様々な家庭の環境をまずは把握し、子どもの育ちを職員間で共有し、親子が安心して過ごせるよう面談や必要な支援に取り組んでいる。早番遅番での、子どもの様子を共有し、受け入れの工夫など共通理解し関わっている。	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもたちが、気づいたり考えたり挑戦したりできる用具や素材が準備されている。	子どもが身近な様々な素材に触れて、自分で選択して遊べる環境がある。可動遊具・季節の植物、行事コーナーと季節や子どもの興味・関心に合わせた環境を意識して用意できている。	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	職員自身、子供自身が、災害時に取るべき行動を考える習慣が身につく様々な状況を踏まえた訓練をしている。	全職員が防災教育研修に参加したことで、災害において自分で考えることの大切さが周知できた。外部講師による、アドバイスを受け、ねらいや想定に添った訓練の実施を始めている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練は各クラス毎行うなど、今後も歳児に合わせた内容で進めていく。</li> <li>訓練を通して子ども自身が考える意識が育まれる点を意識して取り組んでいく。</li> </ul>	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	健康な生活に必要な習慣を子どもや家庭にわかりやすく工夫し、丁寧に伝えている。	食育活動において、1年を通してげんきっずを使った事で、よりわかりやすく食への関心が高まった。給食室からの食育活動企画により、初めての取り組みも増え、実体験を通して食の楽しさを感じられた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いうがいも、エプロンシアターなど視覚的にわかりやすく知らせていく。</li> </ul>	
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	定期的に支援者会議を実施し一人一人に合った支援を話し合い共通理解していく。外部講師による園内研修を通し支援スキルの向上をしていく。	自主研修や療育施設見学を通して、子ども理解やより具体的な支援方法を学ぶことが出来た。また、保護者同士の交流の機会を作り、親支援につながっている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援者会議の内容が定期的に他の職員にも伝えられるとフリーの保育者との連携にも繋がる。</li> <li>具体的な支援方法を見たり学ぶ機会があったが、それが活かされていない。</li> </ul>	
5 組織運営	(1)組織体制の充実	それぞれの職員の良さを活かした分掌担当がねらいをもち連携し、計画的に保育をすすめている。	各分掌が中心となり行事の企画を立て活動を進めていく中で、ねらいや活動の変更の周知が難しい事もあった。職員の得意分野が生かされ、進められている点もあったが、分掌任せになりすぎず、園全体で取り組む意識も持つようにしていく。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議の報告がタイムリーの行われるように工夫していく。(書記を丁寧に言い書面の報告にするなど、色々な報告の仕方を考えていく)</li> </ul>	
6 研 修	(1)研修体制の充実	「これが好き」「これがやりたい」がかなう環境をテーマに子どもの遊ぶ姿から思いを捉え寄り添った関わり、環境を整えている。	研修部が中心となり、研究保育・事後研修では外部講師を招いての討議や、子どもの遊びについて語る会の実施により、遊びに向かう子どもの姿から興味関心を見取り環境構成することに意識が高まった。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害に関してはこれだけ良い。大丈夫という事にはならず、やはりどこまでやっても、不安や反省はうまれると思う。でも、研修を受けそれにより新たな取り組みに向かっているのは、大切な事だと感じる。</li> <li>園の取り組みを聞き、保護者アンケートを読むと、厳しい意見が毎年あると感じる。家庭支援も丁寧に個別にしていると感じる。</li> <li>今年は、近隣の学校や企業とも繋がる取り組みが出来たのは良かった。評議員会での話から、(評議員の方のご尽力で繋がった点がある)園からの発信がきっかけとなっている。</li> <li>今後も継続して地域と繋がっていくと良いと思う。</li> </ul>	
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが選択できる環境を整えるため、教材研究や振り返りを行い、必要に応じて再構成している。	子どもが興味関心に合わせ、環境の構成を考えたり素材の用意はしているが、もっと教材について考えたり学び合う時間を持つと、環境づくりに見通しがもてたのではないかな。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材について学び合う機会をつくり、職員が素材を生かすスキルが向上するようにする。</li> </ul>	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者の悩みを聞きながら、支援が必要な家庭に対しソーシャルワーカーと連携し支援を工夫していく。	ソーシャルワーカーが定期的に来園し、保護者や子どもと関わってきたことで、存在が知られるようになり、相談しやすい環境になってきた。保護者への伝え方や支援の捉え方など、園内研修を通してスキルの向上に繋がった。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者支援において、伝え方をロールプレイで行うのも良い。</li> <li>外国籍の保護者に対して、個別の支援を日常的にしていきフォローしていく。</li> </ul>	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣のこども園の公開保育・小学校の公開授業に参加し、情報共有したり、小・中学生と遊ぶ機会を設けたりして連携を図っている。	近隣のこども園との交流が生まれ、また小学校や高校との交流により、園では出来な体験に繋がった。公開保育や交流の機会を、園からアプローチしたが、実際の交流へと繋がった。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣園や学校との交流を今後も年間計画などで組み入れていき、継続に繋げていくようにする。</li> <li>年長児の就学に向け、学校や近隣園との子ども同士の交流も計画していく。</li> </ul>	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域行事、保育行事への参加から地域と交流し、園だけではできない体験をする機会を作っている。	地域の方や農家さん、企業の方々との交流が生まれ、工場見学や収穫物を見せてもらったりと、貴重な体験に繋がった。デイサービス訪問も始まり、様々な方との関わりの機会を大切にしている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩などで、積極的に地域の方々との交流の機会を作っていく。子どもとの交流を温かく迎えて下さる環境があるので、子ども達もって地域の方とのかかわりの機会を大切にしている。</li> </ul>	